

指導資料

家庭 第45号

鹿児島県総合教育センター
平成30年10月発行

対象
校種

小学校 義務教育学校 特別支援学校

自ら課題をもち、家庭や地域での実践につなげる 小学校家庭科の授業改善

小学校家庭科では、内容の「A 家族・家庭生活」に「家族・家庭生活についての課題と実践」が新設された。生活をよりよくしようと工夫する実践につなげることができるよう、題材の構成や指導の工夫を授業実践を通して紹介する。

1 小学校家庭科の授業改善

家庭科では、これまでも実践的・体験的な活動を通した多くの授業実践が重ねられてきている。家庭科の授業改善を図るとは、これまでの実践を否定したり、全く異なる指導方法を導入しなければならないと捉えたりすることではない。生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成するために、実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れ、児童が課題をもち、自分で考え、解決する学習となるような授業を、工夫・改善しながら繰り返し行うことである。そうすることで、家庭科で学習したことが生活の中で生きて働く力となる。

2 「家族・家庭生活についての課題と実践」の新設

改訂された小学校学習指導要領解説家庭編では、家族の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々と関わることなどが十分ではないことなどの課題が見られることから、学習した知識・技能を実生活で活用するため、家庭や地域と連携を図った生活の課題と実践に関する指導事項が設定されている。それが、内容「A 家族・家庭生活」に新設された「家族・家庭生活についての課題と実践」である。ねらいや指導計画作成に当たっての留意点は、以下に示すとおりである。これまでも、例えば、家族の健康を考えたみそ汁を作るなどの

(4) 家族・家庭生活についての課題と実践（「A 家族・家庭生活」）

ア 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、よりよい生活を考え、計画を立てて実践できること

【ねらい】日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考えたことを表現するなどの学習を通して、課題を解決する力と生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うこと。

【指導計画作成に当たっての留意点】

- 2学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修させるようにする。
- 実践的な活動を家庭や地域などで行うことができるよう配慮する。
- 内容Aの(2)又は(3)、内容B(衣食住の生活)、内容C(消費生活・環境)で学習した内容との関連を図る。



「家族・家庭生活についての課題と実践」のポイント

家庭での実践につながるような課題を、教師が児童に与えて取り組むようにしている。

今回新設された「家族・家庭生活についての課題と実践」は、児童自ら課題をもち、課題を解決する力と生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うというねらいがある。「A(2)家庭生活と仕事」又は「A(3)家族や地域の人々との関わり」で学んだことを基礎とし、「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」で学習した内容と関連を図り、自分の生活の課題として設定できるようにする。

また、課題の解決に向けて、これまでの学習で身に付けた知識や技能を活用し、自分だけでなく家族や地域の人々にとってよりよい生活とはどのようなものかを考え、家族や地域の人々と関わりながら実践できるようにする。

指導計画の作成に当たっては、2学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修させるようにする。また、実践的な活動は、家庭や地域などで行うことができるよう、学校や地域の行事等と関連付けて学期中のある時期に実施したり、長期休業などを活用して実施したりするなどの方法が考えられる。大切なことは、各家庭や児童のプライバシーに配慮しながら保護者会等で学習内容を家庭や地域に知らせるなど、実践への理解と協力を求め、児童が家庭や地域で実践的な活動を行うことができるようにすることである。

3 題材構成の工夫

(1) 他の学習内容との関連

「家族・家庭生活についての課題と実践」の題材を構成する際、例えば、「A(2)家庭生活と仕事」と「B(5)生活を豊かにするための布を用いた製作」を関連させて、家族が互いに協力し合って家庭生活をよりよくすることを課題として設定し、家族が家庭の仕事をする際に役立つ物を、布を用いて製作する計画を立てて実践し、評価・改善するなどの活動が考えられる。

また、「A(3)家族や地域の人々との関わり」と「B(2)調理の基礎」及び「C(1)物や金銭の使い方と買物」との関連を図り、地域の高齢者や幼児、低学年の児童が参加する行事等で、交流することを課題として設定し、交流会に向けて簡単な調理をしたり、必要な材料などを購入したりする計画を立てて実践するなどの活動も考えられる。

り」と「B(2)調理の基礎」及び「C(1)物や金銭の使い方と買物」との関連を図り、地域の高齢者や幼児、低学年の児童が参加する行事等で、交流することを課題として設定し、交流会に向けて簡単な調理をしたり、必要な材料などを購入したりする計画を立てて実践するなどの活動も考えられる。

(2) 課題設定

課題は、「A(2)家庭生活と仕事」又は「A(3)家族や地域の人々との関わり」の家族との触れ合いや団らんの学習を基礎とした場合、個人で設定することが考えられ、「A(3)家族や地域の人々との関わり」の地域の人々との関わりを学習の基礎とした場合、グループで設定することが考えられる。気を付けておきたいことは、個人やグループが設定する課題は地域の課題を解決することではなく、家庭や地域と関わりのある課題を、児童が家庭や地域と関わりながら実践し解決する力を身に付けるようにすることである。よって、これまでの学習の中で疑問に思ったことや更に探究したいこと、自分ができることなどを考えて課題を設定する。

(3) 家庭や地域で実践

計画や実践後の評価・改善は学校で行うが、実践は、家庭や地域で行うことができるようにする。効果的な学習が進められるよう配慮するとともに、よりよい生活とはどのようなものか児童が考えることができるようにする。

- 学習内容を関連させ、計画、実践するなどの活動を工夫する。→(1)
- 課題は、児童自ら（個人又はグループ）設定できるようにする。→(2)
- 児童自ら設定した課題を家庭や地域と関わりながら実践できるようにする。→(2)
- どのような生活をしたいか、自分だけでなく家族や地域の人々にとってよりよい生活とはどのようなものかを児童が考えることができるようにする。→(3)



題材構成のポイント

4 実践例

(1) 年間指導計画への位置付け

図1は、鹿児島市立田上小学校（以下、「田上小」とする。）の年間指導計画である。田上小では、平成29年度から家庭科における学びに

平成30年度 家庭科 年間指導計画 0:時数			
5年		6年	
ストーリー	月	月	題材
生活を見つめ、できる仕事を増やそう	4月③	4月③	1 わたしの生活時間 ②
	5月⑤	5月⑦	2 いためてつくろう 朝食のおかず ⑥
	6月⑨	6月⑦	3 クリーン大作戦 ⑤
	7月⑤	7月⑤	4 暑い季節を快適に ⑦
	9月⑤	9月⑤	5 楽しくソーイング ⑩
	10月⑦	10月⑤	6 くふうしよう おいしい食事 ⑩
	11月⑤	11月⑦	7 共に生きる生活 ⑨
	12月⑤	12月⑤	8 わたしのホームプロジェクト
	1月⑥	1月④	9 寒い季節を快適に ⑥
	2月⑥	2月④	10 家族とほっとタイム ④
生活を見つめ、できることを増やしていこう	3月④	3月③	11 家族とほっとタイム ④
	5月⑤	5月⑦	12 家族とほっとタイム ④

図1 鹿児島市立田上小学校年間指導計画
(平成30年5月鹿児島市立田上小学校公開研究会家庭科実践研究資料から)

向かう力を育てる指導に取り組んでいる。学びに向かう力を育てるためには、家族の一員として家族や地域の人々と関わりながら、自分の生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成する必要があると捉えている。平成30年度は、新設された「家族・家庭生活についての課題と実践」を2学年間で一つ履修させるよう設定し、第6学年の三学期に位置付けている。

(図1参照)

(2) 題材名

「共に生きる生活『わたしのホームプロジェクト』」(内容A 家庭生活と家族)

(3) 題材の目標

家庭生活を見つめ、共によりよく生きるために、どのように生活を工夫していけばよいか考え、実践する喜びを味わうことを通して、家庭や地域の生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

(4) 題材構成の工夫

「A(3)家族や地域の人々との関わり」で学んだことを基礎とし、「B(5)生活を豊かにするための布を用いた製作」と「B(6)快適な住まい方」を関連させた題材構成とした。

(5) 設定した課題

「A(3)家族や地域の人々との関わり」の学習を基礎としており、児童は、住んでいる地域のグループごとに「地域の生活をよりよくするために、自分にできることを工夫しよう」という課題を設定した。

(6) 指導上の配慮事項

家庭や地域との連携を図り、効果的な学習が展開できるよう、学習のねらいや内容について、学級PTAや家庭科便り(図2)等を通して情報を提供するなど、家族が学習の意義や内容を理解できるようにした。

5年生 家庭科だより 創刊号 ☆ 2018.11.00

はじめまして 家庭科

新しく「家庭科の学習」が始まりました。家庭科では、毎日の生活に目を向け、学習します。4年生までに学習してきたことを土台に、「なぜだろう?」と調べたり、「こうだったらいいな」と思いや願いをもって実験してみたりします。

授業の中で、今まで当たり前だと思っていたことよさや意味があらためて分かるようになったり、自分でできることが増えていくことで子供たちの喜びや自信につながっていったら素敵だなと思っています。子供たちが、生活をよく見つけ、学んだことを自分の生活にどんどん生かしていくことができるよう努めて参ります。

保護者の皆様へ

5年生から新たに始まる家庭科は、毎日の生活の中から学習課題を見付け、家族の一員として家庭生活をよりよくしようと行動する態度を育む教科です。

そのために、どんなことに気を付けて調理をしているのかなど、ご家庭でのやり方について保護者の御意見を伺いたいと思います。

また、御野菜を使った調理もしますので、子供たちの学習や練習の機会をご家庭で設けていただくこともあります。「おいしかったよ」「よくできたね」という保護者の御褒め言葉は、子供たちにとって大きな励みになります。

本校では、家庭での実践力を育むために、また、食生活の改善や調理の楽しさを伝えるために、家庭から持ってきていただく食材も歓迎いたします。

どうぞご理解、ご協力をお願いします。また、何か学習に際しましてご不明な点や伝えておきたいことなどがございましたら、〇〇までお知らせください。

図2 家庭科便り
(鹿児島市立田上小学校 松田 華奈 教諭 作成)

(7) 題材の指導計画 (家庭や地域での実践を除き、総時数5時間として設定した例)

学習過程	主な学習活動等	時数	関連内容
つかむ 見通す	1 2年間の学習を振り返り、自分の成長は、家族だけでなく地域の人々にも支えられてきたことに気付き、家庭や地域の生活をよりよくするために、課題を設定し、計画を立てる。 地域の生活をよりよくするために、自分にできることを工夫しよう。	2	A (3) 家族や地域の人々との関わり
調べる 確かめる	2 地域のよさや課題について話し合い、家庭科で学んだことを生かしてどんなことができるか考える。 地域の集まりや行事などでよく公民館を使っているけど、しっかり掃除をしているのかな。 そうだね。じゃあ、整理整頓や清掃についての学習を生かして、公民館をきれいにしたいね。 そういえば、気になっていたんだけど、家や学校には足ふきマットがあるのに、公民館にはないよね。 家庭科で学んだミシン縫いを生かして、家にある余り布を使って足ふきマットを作るのもよさそうだね。	1	B (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 B (6) 快適な住まい方
家庭や地域での実践			
生活に 生かす	3 実践発表会をする。 地域の人にプレゼントするのは初めてだから少し緊張したけれど、自分たちが作ったものを贈ったら「ありがとう。」と言ってもらった。とてもうれしかった。 中学校では、もう少し難しいものも作れるようになりたい。楽しみだな。	1	
	4 学習を振り返り、家庭や地域での生活をよりよくしようと工夫していくことについて、新たな課題を見付けるなど、次の実践につなげる。	1	A (3) 家族や地域の人々との関わり

(鹿児島市立田上小学校 松田 華奈 教諭 の実践例を基に作成)

—引用・参考文献—

自ら課題をもち、家庭や地域で実践し身に付けた力は、最終的に社会を生き抜く力となる。



学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化し、実践的な態度を育成していく必要がある。

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説家庭編』平成29年7月、東洋館出版社
- 鹿児島県総合教育センター『小学校学習指導要領解説 Q&A 家庭科』平成30年2月
- 鹿児島市立田上小学校公開研究会研究誌「共に学び未来を創るⅡ」平成30年5月 (企画課 当房 孝子)